

賢い消費者になるために

心当たりのない商品が届いたら

「海外から心当たりのないスカーフが届いた」という相談があります。まずは、贈り物でないか確認しましょう。贈り物でなければ、ネガティブ・オプション（送りつけ商法）の可能性にあります。

法律上、受け取ってから14日間の保管義務がありますが、それ以降は処分が可能です。処分前に、差出人の名称、住所、電話番号等の記録を取りましょう。個人情報流出しているの、クレジットカードなどの明細に不審な請求がないかを確認しましょう。不審な請求があるときは、すぐにカード会社に連絡しましょう。

●問い合わせ 消費生活センター
(本庁舎1階 ☎36-8832)



まつもと市民生きいき活動

No.54

このまちをきれいにしよう

神林南水寺公民館からサンプロアルウィンに向かう歩道に、マリーゴールドのプランターが並びます。4年ほど前から地元のAさんが、地域の中で人と人のつながりが自然にできたらいいなと始めたそうです。花の植え付けや水やりは地域の仲間が協力してくれています。

今年は、新型コロナウイルスの影響で、さまざまな行事が中止になってしまいましたが、子どもたちに楽しんでもらいたいと寺家町会の子ども会と一緒に花の植え付けを行い、メッセージも書いてもらったそうです。

「あいさつや言葉を交わすことをきっかけに顔見知りが増え、また、花を見て少しでも癒しを感じてくれたら」と話してくださいました。



●問い合わせ 教育政策課 (☎33-3980 ☎33-3934)

医療メモ #373

植物にかぶれ

私たちはさまざまなかぶれがありますが、かぶれの正式な名前は「接触性皮膚炎」です。この原因は大きく2種類に分類されます。

一つは「一次刺激性」といって、酸やアルカリ、または擦れの刺激によつて、誰にでも同じように生じるものです。手荒れやおむつかぶれがこれにあたります。

もう一つが「アレルギー性」です。皮膚の免疫細胞に本来無害なものが触れたとき、それを外敵と誤って判断し攻撃してしまう現象です。これを医学用語で「感作」と呼びます。これらのかぶれの原因物質で一番多いのが植物です。

植物かぶれのうち、最も重篤な症状を引き起こすのがウルシです。アレルギー性のかぶれで一度触っただけで感作が成立し、次に触ったときには激しい皮膚炎を引き起こします。いわば植物かぶれの横綱です。

ウルシ部屋の一門には強力な弟弟子が大勢います。毒性番付上位から

紹介すると、ツタウルシ、ヤマハゼ、ハゼノキ、ヤマウルシなどです。マングローもウルシ科なので、食べた後は必ず果汁を洗い流しましょう。

かぶれ植物の大関と呼べるのが、イチヨウです。大人になるまでにはほとんどの人が感作されていて、晩秋になると銀杏拾いでかぶれた患者さんが皮膚科に押し寄せます。

市販されている花でもかぶれるものがあります。サクランボ（プリムラ）です。もし家に鉢があれば、水やりの時は要注意です。その他、感作しやすい植物には菊やレタスがあり、生産者の方を悩ませます。

また、とろろなどナガイモの液が乾くとシユウ酸カルシウムというトゲトゲの結晶に変わって、一次刺激性のかぶれが生じます。パイナップルやイチジクでも同様です。

●松本市医師会 (<http://www.msj-med.or.jp>)

